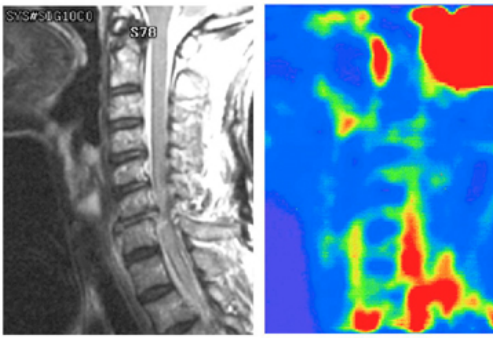
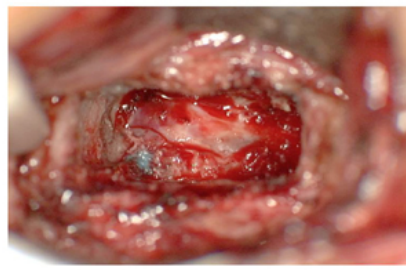
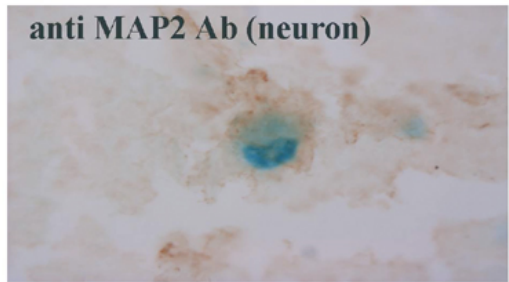
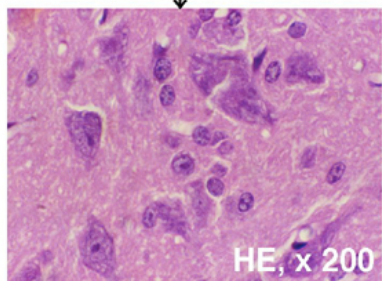


福井大学研究シーズデータ

| | | | | | |
|---|---|---|------|------|-----------|
| 名前・学部・学科等 | 馬場久敏：医学部：器官制御医学講座整形外科科学領域（附属病院リハビリテーション部） | | | | |
| 研究情報の分類 | シーズ 特許 新製品 分析/解析 調査 | | | | |
| 研究分野の分類 | 13 | 以下の18項目から一つ選び番号を左欄に記入する。 1.物理系 2.エネルギー系 3.化学系 4.バイオ系 5.環境系 6.海洋・宇宙系 7.交通系 8.機械系 9.材料系 10.電子・電気系 11.情報系 12.建築・建設系 13.医学系 14.健康・保険系 15.看護・福祉系 16.農業・林業系 17.水産・畜産系 18.その他 | | | |
| 重点研究分野への該当 | I T ナノ バイオ 環境・エネルギー その他 | | | | |
| キーワード(5個以内) | 脊椎脊髄外科 | 神経細胞再生 | 脊髄移植 | 脊髄損傷 | リハビリテーション |
| 研究情報の名称 | 脊髄神経細胞の生存活性と可塑性および脊髄再生に関する基礎的研究 | | | | |
| <p>【概要】</p> <p>脊椎脊髄疾患全域に亘る基礎的研究に関連した診療、神経疾患のリハビリテーション医学医療を行っていますが、特に脊柱靱帯骨化症や広範脊柱管狭窄症に対しては、平成5年より厚生省特定疾患脊柱靱帯骨化症調査研究班に所属し（分担研究主任：馬場）班内分担研究と多施設疫学共同研究を行っています。頸椎後縦靱帯骨化症の新しい画像診断と脊髄誘発電位、頸椎前方手術時の“semi en bloc 切除”手技を導入した根治的手術、顕微鏡視下椎間孔拡大術を併用した脊柱管拡大術、といった新しい試みは当診療科のoriginalなものであり、英文論文で世界にその結果や技術を公表しています。平成11年度より『慢性圧迫における脊髄の可塑性の臨床研究』の分担研究を行っており、その研究内容は国内外の学会を常にリードし、わが国を代表する研究機関の一つになっています。骨粗鬆症に対しては内科的診断・治療を基礎に、脊柱再建手術（前方法、後方法）を積極的に行っています。特に前方直達手術では、欧州で開発された“LIFT Vertebral Body” system, およびLD instrumentation手術を本邦で逸早く導入、本邦では現在最も手術症例数が多い施設となっていますが、当科が日本人用に改良を加えた人工脊椎（LIFT Vertebral Body）が本邦では使用されています。神経栄養因子ベクター発現アデノ・ウイルス導入による脊髄損傷・脊髄症の遺伝子治療に向けての基礎的研究を既に開始したが、近い将来この遺伝子治療プログラムの臨床試験を開始すべく基礎研究を進めています。</p> | | | | | |
| <p>【研究の社会還元】</p> <div><div><p>脊髄麻痺MRI・PET画像</p><p>↓ 手術的切除</p></div><div><p>神経栄養因子をくみこんだ遺伝子治療</p><p>anti MAP2 Ab (neuron)</p><p>↓</p><p>HE, x 200</p><p>損傷された脊髄神経細胞</p></div><div><p>脊髄再生医療</p></div></div> | | | | | |
| 関連している企業・大学・団体等 | 厚生労働省：日本整形外科学会など | | | | |
| 関連する特許1件 | なし | | | | |
| 関連する論文1編 | H. Baba et al. Three dimensional topographic analysis of the spinal cord motoneurons. J Neurol 244: 222-229, 1997 | | | | |